

言語技術の効果的な活用・言語活動の充実を図った
道徳の授業実践例

府中市立府中中学校（T1）
府中市立府中小学校（T2）

- 1 学年 第2学年
主題名 法の意義と遵守4 - (2) (資料 「困ってしまった王様」)
- 2 ねらい 法律は民を守るためにあることを訴え、情けの心の貴さをもって娘を許すよう尋ねる家臣ガウスと、法律に例外を作ればまた元の乱れた国に逆戻りしてしまうことを案ずる王の法律施行の意図を考えることを通して、個人の自由を保障するきまりや法律の意義を理解し、自ら進んできまりや法律を守ろうとする態度を育てる。
- 3 本時の工夫点 葛藤場面での互いの意見に対して、相手の立場に立たせる切り返しで揺さぶりをかけることによって、生徒にじっくり考えさせる。
葛藤場面での互いの意見に対して、疑問や考えたこと、気がついたことなどを矢印とともにメモさせながら、自分の心の動きが分かるようにさせる。
- 4 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
導入	1 資料確認 ・資料の冒頭を読み、王様がおかれている状況を把握する。	・資料冒頭部を読み、乱れた国をもとに戻すために自分だったらどうするかを考えさせる。	
展開	2 葛藤場面の確認 ・資料を読み、王様の悩みを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・国を治める責任者としての悩みを考えさせるために、困っていることを出させる。 「処刑する」と「処刑すべきでない」 「王様は、どうすればいいのだろうか」 ・王様の立場に立っての意見、判断、その理由をそれぞれワークシートに書かせる。 ・立場を明確にさせ、その理由を出しあい、考えを深める。「処刑すべき」「処刑すべきでない」 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見を受け止め、考えを深めている。 (発言・ワークシート)
	3 個人判断 ・自分の判断、意見、理由をまとめる。		
	4 それぞれの判断の確認 ・立場を表明するカードを活用して意見を出し合い、多様な考え方を知る。		
	5 ねらいに絞った価値の交流 ・遵法精神と人間愛優先との間で、他者の考えとの比較を通して、自分の考えを伝えるよう整理させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・名前カードを用いて自分の立場を明確にさせながら、他者の多様な考えを受け止めさせ、吟味させる。 ・他者の意見に対する反論や疑問について、矢印をつけて思考を整理させる。 ・意見の違う他者に、自分の考えを伝える目的意識を明確にして、考えを整理させる。 	
終末	6 まとめ ・きまりについて自分の考えをまとめ、発表する。	・本時以前に持っていた「きまりに対する認識」と比較させ、授業を通して学んだことをもとに、今の自分はどうかを見つめなおす。 「今日の授業を通して、あなたはきまりや法律についてどんな考えを持ちますか。これまでの自分の考えと比べてまとめなさい。」	・きまりのもつ意味をとらえ、きまりを守ろうとする姿勢で、自分の意見をまとめている。 (ワークシート)